

みくに



歯科治療の様子

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
HP: <http://www. teshimamikunien. com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

「障害者の社会参加」

主任 柴田裕紀子

7月26日、津久井やまゆり園の事件が起きてから3年が経ちました。犯人である植松聖被告は「意思疎通が取れない人（重度障害者）は世の中に不要だ、社会の為にならない」という考え方で事件を起こし、今でも、その考えは変わっておらず、事件に対する反省や謝罪の言葉はありません。

2016年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」では、「すべての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、人格と個性をお互いに尊重しながら共に生きる社会の実現のために、障害を理由とする差別の解消を推進すること」を目的としています。しかし、このような法律が定められても、障害に対する差別がなくなることもあります、悲しい現実です。

この7月、令和になって最初の参議院選挙がありました。今回の選挙では重度障害者の木村英子氏と筋萎縮性側索軟化症（ALS）の船後靖彦氏が当選しました。国会議事堂では、車いすを利用している2人のため、本会議場の出入り口に近い3人分の椅子を取り外し、大型車いすのまま着席できるように改修される予定です。しかし、課題は本会議場をバリアフリーにするだけではありませんでした。2人が使っている重度訪問介護サービスにおいては、議員活動中は経済活動とみなされ、全額自己負担になり、その額は月130万円にもなるそうです。また、船後氏は発語が難しく、目と口のわずかな動きのみで意思を伝えるため、質疑時間をどれだけ確保するかも議論されています。自分の意思を伝えるために時間が制限されることに対しては疑問に思います。他にもノートパソコンの持ち込みは許可されましたか、目の動きで操作する「分身ロボット」の使用はまだ結論が出ていない状態です。国のトップ機関である国会でさえ障害者の活動に対して今もなお、問題が山積していることに驚いています。しかし、この問題は、メディアにも取り上げられ、多くの人に注目されています。国が率先して一つひとつ問題を解決していくながら、重度の障害者が活躍できる社会になって欲しいと思います。

みくに園でも言葉でのコミュニケーションが難しい利用者はたくさんいます。しかし、言葉では自分の思いを伝えられなくても行動やジェスチャーなど、様々な方法で私たちに思いを伝えています。その人なりの表現で何かを必死に伝えようとしています。自分の意思がないわけではありません。今回当選した参議院議員の2人が、それぞれの方法でしっかりと自分たちの意思を伝え、国を大きく動かし、少しでも障害者の方が暮らしやすい社会になることを期待しています。



<諦めない!Part119> Sさんの大作戦!

2019年、3年に一度の瀬戸内国際芸術祭が始まった。豊島もたくさんの観光客が来て賑わっている。良いことなのだがその賑わいの反面、残念なこともある。それは空き缶やペットボトルのゴミが路上に増えたことだ。豊かな自然とアートが大きな魅力の一つとなっている島だというのに、ごみが捨てられているのを見ると悲しい。そこでSさんと一緒に取り組む「豊島をきれいにする大作戦」を始めた。

体を動かすことが好きなSさんは毎週土日に30分程かけて散歩に行く。その際、火箸を持って行き、見つけたゴミを拾いながら散歩することにした。

快く引き受けてくれたSさんは、道端や溝に落ちているゴミを丁寧に拾い、袋に入れてみくに園に持ち帰る。帰る頃には汗だくになるほど真剣だ。最近では散歩コースもSさんが自分で決めて、散歩とゴミ拾いをしている。

地道にゴミを拾っていても、残念ながらなかなか捨てられるゴミは減ることがない。それでもSさんは嫌な顔ひとつすることなく、黙々と活動を続けている。ささやかな取り組みでも、確実に豊島の風景に良い影響を与えているはずだ。

(松田 記)



<諦めなし!Part120> Yさんの約束カード



昨年3月に入所した自閉症の女性のYさんにはお気に入りの職員がいる。その職員が休みの日には、次はいつ出勤するのか気になって気になって仕方がない。うまく言葉で伝えることが苦手なYさんは、その不安が原因で他害に繋がることもある。どうにかこの不安や他害行動を取り除くことができないかと職員間で何度も話し合った。

まず、1ヶ月の職員の出勤を写真と文字で貼り出し分かりやすくした。そして他害行動に関しては、レスポンスコスト法を取り入れた。1枚の約束カードを作り、そこに10枚のシールを貼る。約束が守られなかった場合、その場でシールを1枚ずつ剥がしていき、1日の終わりにシールの数だけご褒美を受け取る方法だ。約束はYさんに分かりやすいように絵と文字で表示した。試行錯誤を繰り返しながら、最初はシールが1枚になる日もあったが、Yさんはすぐにそのシステムを理解するようになった。1日の終わりにシールの数のミニチョコを確認しながら受け取るYさんの表情は穏やかだ。お気に入りの職員の休みが続いても約束カードを見ながら落ち着いて過ごすことができるようになった。

そんなYさんの成長した姿を見て、その人にあった支援方法を考えると共に、諦めずに取り組む大切さを学んだ。

(川下 記)

「みくに園と出会って」

池田歯科医院 院長 橋本信之介



<池田歯科医院の橋本ドクターとスタッフのみなさん>

みくに園との出会い

僕とみくに園との出会いは今から6年前ほどでしょうか。当時広島大学卒業後、香川大学医学部口腔外科に所属し、池田歯科医院に週1でアルバイトに来ていました。そこで先代、池田弘一先生に、「豊島の施設に往診に行ってくれないか?」と言われたことがきっかけでした。高松市に生まれ育った僕ですが、今のように瀬戸内国際芸術祭が盛んでなく、豊島にあまりなじみがなく、第一印象は「豊島ってどこ? しかも船に乗って往診行くの?」というのが正直なところでした。

初めてのみくに園

みくに園初日は大荒れの天気でした。何とか座っていられるぐらいの飛び跳ねるような揺れのなか、必死の思いで家浦港に着きました。ほっとすると同時に、抜歯などの外科手術には自信があったものの、障害者歯科の専門でもないのに、どうやって治療をしていくか不安でいっぱいでした。しかし、いざ治療に入ると意外と普通に治療できる!! 心配せんでもよかったです! それが大きな過ちであったのに気が付くのはまだ先のことでした(治療しやすい方だけが選抜されてただけでした 笑)。

みくに園での歯科治療

当時のみくに園での治療は虫歯や義歯の治療もしていましたが、主に口腔ケアがメインでした。障害のある方に対してどこまで積極的な治療を行っていくのかは専門の先生でも考え方方が分かれることで、実際身体抑制してまで治療はしない、その方の無理しない範囲でできる治療をするという専門の先生もいらっしゃいます。でも僕は「本当にどうやっても治療できない方は確かにいる。ただ、多くの方は治療の段階を踏んで歯科に慣れ、治療を工夫し、チャレンジしていくばできる治療は増えていく」と考えています。6年間豊島に通い続け、実感としてそう感じています。初めてみくに園を訪れたときに、讃岐弁でいう、じょんならん(全く治療にならなかった)方でも、身体抑制は必要であっても、麻酔を打って歯の神経の治療をしたり、かなり成長を感じています。身体抑制というとすごくネガティブですが、彼は自ら職員さんが作ったエプロンに手を入れベッドに横になりじっと抑制の準備を待ちます。僕は「治療できないから」と決めつけるより、「できるかもしれないから頑張ろうか」の方が前向きで好きです。確かにエネルギーはありますし、報われないときも多いですが、こちらの何とかしようという真剣さが伝わればみんないつかは理解してくれる、そう思っています。

みくに園の方々へ

6年前に比べできる治療が非常に増えたのは、僕らや入所者の方が慣れただけでなく、みくに園の職員の方々の協力があってのことです。絵カードやエプロンを自作してくれたTさん、いつもすぐ駆けつけてくれる医務室の3人、忙しい中、1番館や2番館からみんなを連れてきてくださる職員の方々、いつも大変お世話になっております。ありがとうございます。また、この7月にみくに園のご厚意でレストトレーナーというネットを購入して頂きました。非常に効果が高く、体動を確実に抑えられるため、安全に歯科治療を行えます。この場をお借りして御礼申し上げます。



<レストトレーナー>



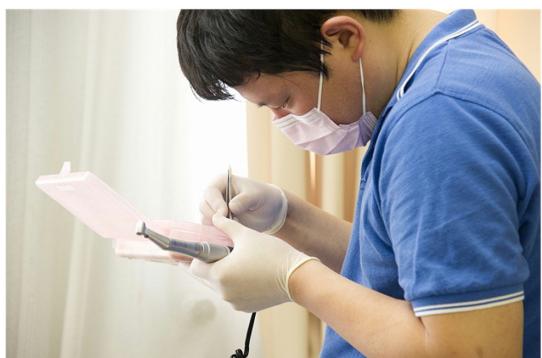
<レストトレーナーを使っての治療>

池田歯科医院をとりまく変化

みくに園に行くようになった翌年、僕をみくに園に引き合わせてくれた池田先生が亡くなりました。ご縁があり医院を引き継ぎ、この7月で5周年となります。スタッフも増えて現在、僕と16名で頑張っております。僕が往診に出ることもめっきり減りましたが、みくに園は僕にとって特別な場所であり、癒しの場所でもあるので、体の続く限りこれからも頑張っていきます。

最後に

診療所にも来ていただいた故高田理事長と先代の故池田先生がいなければ、僕とみくに園が出会うことはありませんでした。お二人のご冥福を心からお祈り申し上げます。長文となりましたが、最後までお読みいただきありがとうございました。スタッフともども精一杯頑張りますので、今後ともよろしくお願ひします。



公益財団法人 森村豊明会より助成金をいただきました

森村豊明助成金を受けてみくに成人寮作業棟の空調設備工事が完了しました。

助成金2,000,000円 全工事費2,610,684円

合計7台のエアコンが新しく設置され、レモン作業や入浴時も快適に過ごすことができています。ありがとうございます。大切に使います。



夏まつり

7月27日豊島中学校の生徒と教員の協力のもと、みくに園の夏まつりを開催しました。今年は中学生のソーラン節とパプリカのダンスで祭りの締めを飾りました。



<行事予定>

8月19日	済生丸検診
8月20日	済生丸検診
10月 8日	3番館遠足
10月22日	2番館遠足
10月24日	1番館遠足

家庭の日のお礼

今年も暑い中、水路掃除やそら豆のさやとりにご協力頂きありがとうございました。

編集後記

自閉症者に対しての治療は、本人が治療の見通しが持てないことや経験不足による恐怖から治療することが難しいと言われています。絵カードや手順書を作成しても、いざ治療に入ると、思った通りに行かず、歯科医ともども汗だくになり治療にあたります。そんな中でも、今回みくに便りに寄稿してくださった池田歯科医院の橋本ドクターは、根気よく利用者に向き合ってくれます。歯の治療により長年悩んでいた反芻行為がなくなった方もおられ、改めて歯の大切さを感じています。みくに園まで診療に来ていただきありがとうございます。そして、障害を理解し、寄り添ってくださる橋本ドクター、スタッフのみなさんに感謝しています。

*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920